

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2591800012
法人名	あすなろ福祉会
事業所名	グループホームかがやき
訪問調査日	平成 21年 12月 25日
評価確定日	平成 22年 1月 12日
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2591800012
法人名	あすなる福祉会
事業所名	グループホームかがやき
所在地	滋賀県犬上郡豊郷町沢506-1 (電話) 0749-35-3015

評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成21年12月25日	評価確定日	平成22年1月12日

## 【情報提供票より】 21年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 12月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	5 人 非常勤 1 人 常勤換算 5、6

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨スレート造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,400 円	その他の経費(月額)	— 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

### (4) 利用者の概要( 12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.7 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	世一クリニック 塚本歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

あすなる福祉会の授産施設、障害者作業場、養護老人ホームなどが併設した福祉団地内に「グループホームかがやき」がある。理事長の障害者に思いやる気持ちが福祉団地へと拡大していった。障害を持っていても自立に向けた生活の為に能力に応じた生産活動に関わり、勤労の喜びを体験するように運営面で健常者と協働した生活をしている。グループホームに於いても能力に応じて福祉会の担っている作業を手伝いながら工賃を受けている。団地前は一級河川宇曾川があり、周辺は田園地帯で集落から離れた一角にあり、天気の良い時には格好の散歩道として利用している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価で・理念・理念の共有・地域とのつきあい・評価の意義・家族等への報告・家族等意見の反映・職員のを育てる取り組み・同業者との交流・重度化等に向けた方針・の改善課題があったが理念を管理者と職員が共有することは改善しているが、その他は改善出来ていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者1人で作成した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は自治会、老人会、民生委員、利用者、家族、行政職員、事業者側職員で構成している。運営推進会議は2ヶ月毎に開催して、提起された課題については職員会議で検討し改善活動に向けている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族訪問時や運営推進会議の中で家族から意見や苦情を聞き取る様にしている。出された意見などは職員会議で検討して改善に繋げている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会、老人会には入会していない。豊郷町主催の健康フェスタへ産科やや中学生のブラスバンドなどの慰問を受けている。ホーム主催の夏祭りには地域の人々の参加もあり盛大に行っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針には「地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い・・・」と地域との支援体制の文言はあるが運営理念にはその記述がない。	○	運営理念に地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく事の文言を入れて地域住民にも理解と協力がもらえる体制作りを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の業務引継会議や毎月の職員会議の中で理念の考え方なり実際の現場での対応などの話をして職員との共有化に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会に入会してはいない。地域の健康フェスタの催しには参加している。中学生のプラスバンドなどの慰問の交流もある。ホームを含む事業所主催の夏祭りには地域の参加も得て交流している。	○	自治会、老人会に入会して地域住民の一員として、地域からホームを支えて貰える体制づくりに努力してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成は管理者で行った。	○	自己評価は職員全員が参加して、評価を実施する意義を理解し、評価結果を活かして全員が一つの方向に向かって改善活動に取り組んでほしい。
		○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議のメンバーは自治会長、老人会長、民		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生委員、行政、利用者代表、家族代表と事業者側4人で構成している。開催は2ヶ月毎に開催している。議題はホームの概況が中心となっており質疑と意見が提起されている。出された意見は職員会議に持ち込んで改善活動につなげている。		運営推進会議に豊郷町の職員の欠席が気になる。グループホームの管理指導を担っている行政側の出席を求めて行う様に努力をしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	豊郷町福祉保健課とへ連絡を密にして相談に対して助言をもらっている。介護相談員の受け入れはない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況を利用料などの請求を併せて、書面で毎月郵送している。	○	仮称「かがやきだより」などでホーム全体の運営状況の報告をする努力をしてほしい。家族がホームへ訪問する機会を多く作り、家族と歓談出来る様に努力してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が出席して意見を述べている。家族訪問した時には意見を聞くようにしている。それらで出た意見は職員会議に諮り改善に繋げている。	○	家族が忌憚のない意見をや要望を聞き運営に反映する為に利用契約書に苦情窓口や第三者意見窓口などの明示やホームでの意見箱の設置などをしてほしい。家族がホームへ来る機会を作り、家族会結成に向けての努力をしてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職とグループ内での異動は開設以来ない。離職者を出さない様にグループ内で親睦会行事などを活発に行いストレスの発散などに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内での職員研修は毎月1回全員対象で職場を離れる事が出来ない為に2部制で各種のテーマを取り上げて行っている。対外的な研修は自己負担で処理している。	○	全職員を対象に年間育成計画を作成して職員を計画的に育てる取り組みをしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はしていない。	○	地域の同業者と交流する機会を持ち、勉強会や相互訪問等の活動を行う事により、サービスの質を向上させていく努力をしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者へ家庭訪問し、家族から生活歴を聞きとり、顔なじみを作る努力をしている。ホームの見学は受け入れている。利用者の新入居時は担当職員が細かな観察を行い不安解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から地域行事や生活の知恵、貯蔵品の作り方など人生の先輩として教わる事があり、それらの引き出しに努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴の把握に努め価値観や好き嫌いなどの性格を知る努力をしている。意向の把握が出来ない時は複数の選択肢を設けその中から読み取る事や表情を観察する様にして希望や意向の把握を行う様に努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者(ケアマネージャ)が利用者の生活歴や医師の診断結果などを考慮して原案を作成して、職員会議で意見を求め作成している。介護計画は家族と利用者の同意を取り付け署名と捺印を受けている。		
		○現状に即した介護計画の見直し			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化がなくとも、3ヶ月が経過すれば見直しはかけている。状態変化が起きた時には都度見直しをかけている。見直しは職員会議で行っている。利用者家族の意見も聞き入れ同意と捺印を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への移送で家族が対応出来ない時はホームで行っている。		利用者や家族からの細かな要望に対応は出来ないか検討してほしい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への往診や通院をホームが対応した時には診察結果は電話で家族に報告をしている。利用者の緊急対応時にはかかりつけ医への相談や緊急通院支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての重度化及び終末期のケアについての行わない方針で、その文書化の原案は作成してグループ内で検討をしている最中である。	○	早期に文書化して家族にも理解と署名捺印を取り付けて、ホームと家族との責任範囲を明確にしてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りと人格を傷つけないつけない様に全職員が言葉かけや接する態度に配慮している。個人情報の取り扱い書類は事務室で管理をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームで準備している、居間で簡単なゲームしたり、歌を歌ったりのスケジュールはありますが、ホーム敷地内にある畑を楽しむ人等個々のペース合わせ自由に過ごしている。天気良ければ朝、夕に散歩をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に食事の準備や配膳、片付けに参加している。利用者と月2回程度食料の買い物に行っている。毎月1回程度季節感の有る献立を取り入れている。利用者は職員と一緒に食事を摂っている。茶碗湯飲み箸などは利用者の物を使用している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜、木曜の週2回である。脱衣場や風呂場は広く脱衣場、風呂場とも冷暖房器を設けている。入浴を拒む利用者には日をずらして対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	グループ内のデイサービス事業所へ遊びに行く事もある。食事の準備や後始末にも参画している。グループ内で製造の下請けをしているので簡単な作業をホームの利用者も工賃を貰って手伝っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見、外食、バラ園見学、夏祭り、地藏盆、運動会など月2回程度の外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やホームの玄関は日中は鍵をかけていない。夜間は防犯上鍵をかけている。昼夜を問わず徘徊をする利用者はいない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡網は整備している、ホームを始めとするグループ内で災害時を想定した避難訓練は年2回開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面について管理者が管理し季節感のあるバランスの取れた食材を使う配慮している。夕食は配食業者から量や栄養、配色などを配慮して支給を受けている。水分量については食事の際にお茶や水を十分に摂るなど1日あたり1500cc程度の水分補給に努めている。		高齢者にとって水分補給は健康管理には重要項目、利用者個々の記録管理をしてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と居間は広く、天井は吹き抜けで太陽光を取り入れ明るい。花の飾り付けや、廊下には利用者の写真を掲示をしたり、居心地良い雰囲気づくりをしている。ホームの中心に居間を設けその回廊に居室を配置して使いよく、管理のしやすいホームとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋室でベッドと洋服ダンスがホームで設置している。利用者は整理ダンスや布団を持ち込んでいる。ホームでの行事写真や家族の写真を壁面に貼り付けて利用者の生活ぶりが伺える居室になっている。		